

どうとくのひろば



道徳コラム：ワールドカップに学ぶ「ピッチの外のヒーロー」

—— 悔しさを超えた先にある、本当の団結力 ——

世界中が熱狂したサッカーワールドカップ。日本代表が強豪国を相手に一步も引かず、泥臭く戦い抜いた激闘の数々から胸を強く揺さぶられた方も多かったのではないのでしょうか。テレビ画面に映る華やかなゴールや勝利に歓喜している姿とは別に、実は主役たちを支え続けた「もう一つの感動のドラマ」があったようです。

今大会の日本代表は、大会が進むにつれてけが人が相次ぎ、チームは満身創痍の非常に厳しい状況に置かれました。戦術の変更や急なメンバー交代を余儀なくされるピンチの中で、チームの絆を繋ぎ止めたのは、ベテランの長友佑都（ながとも ゆうと）選手存在ではないのでしょうか。

世界の第一線で長く活躍し、日本代表を引っ張ってきた長友選手。一人のサッカー選手である以上、「試合に出て活躍したい」という気持ちは誰よりも強いことがインタビューや練習する姿から感じられた人いるのではないのでしょうか。なかなか出場機会に恵まれなかった彼の胸の内には、計り知れない悔しさや葛藤があったことと思います。

しかし、長友選手はその個人的な悔しさを胸の奥にしまい込み、一步ピッチの外に出ると、仲間のために率先して動き、誰よりも大きい声で誰よりもたくさん声を出していました。

チームの雰囲気盛り上げようと、自分ができるところを行っている姿は心がじんとなりませんでしたか。試合が始まればベンチの最前列から身を乗り出してピッチへアドバイスを送る。そしてハーフタイムや試合終了のホイッスルが鳴った瞬間には、冷たいお水やタオルを両手いっぱい抱えて、真っ先に戦い終えた若い仲間へと駆け寄って行っていました。

長友選手は、自身の役割についてインタビューで次のように語っていました。

「もちろん選手として出られないのは悔しい。その思いは持っているけれど、この日本代表に自分が貢献できているというのは、どんな役割であれ自分の仕事に誇りを持っている。だから戦えている」と。

この言葉通り、「自分ができること、絶対にこのチームを支える」という長友選手の献身的な支えがあったからこそ、ピッチの選手たちも「みんなの思いを背負って、1歩も引かずに最後まで走り切るんだ」という強い覚悟を持って戦うことができたのではないのでしょうか。ピッチに出ている人たちが試合に出ているのではなく、目立たない場所での支え合いこそが、日本代表の本当の強さであり、世界に誇れる美しい団結力でした。

これは、子どもたちが過ごす学校生活やクラスの中でも、全く同じことが言えます。

誰もがいつでもリーダーや主役になれるわけではありません。行事の準備や普段の係活動、委員会活動等の中で、時には自分の思い通りにいかないことや、裏方に回ることもあります。

そんなとき、「どうせ自分なんて出番がないから」とあきらめて投げ出すのではなく、「今の自分に、みんな（クラス・学校）のためにできることは何だろう」と考えて、自分から一步踏み出せる人こそが、集団を支える本当のヒーローです。

スター選手一人の力ではなく、お互いの状況を思いやり、それぞれの場所で全力を尽くした日本代表の姿。ご家庭でもぜひ、テレビの前で応援した思い出とともに、「目立たないところでの頑張りや、仲間を支える優しさの価値」について、お子様とじっくりお話してみたいはいかがでしょうか。

保護者の皆様からのあたたかいお言葉

いつも本校の道德教育、および「道德だより」への温かいご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。これまでに寄せいただいた、皆様からの貴重なご意見や感想（一部抜粋）をご紹介します。

1回目【道德教育全般について】

- お友達との対話を通して「思いやり」や「自分もみんなも一人一人大切な存在」であることを学んでほしいと思います。失敗することがまだまだ怖いようなので、少しずつ乗り越えてほしいです。
- 道德はとても大事な授業だと思います。娘には、自分も他人も大切に、人生を楽しんでほしいと思っています。そのためにも、日々の生活の中で、授業の中で、様々なことを学び、失敗や成功を体験して振り返ることで道德性が育つのではないかと思います。「自分の意見が言える」「人の話がきちんときける」よう家でも話をしていこうと思いました。
- 具体的に「こういった話をしました」と言葉で書くのは難しいことが多いのですが、「どうとくのひろば」の内容によっては親が思うことと、子供が感じるものが全く違っていたり、子供の学年の内容が発行された際には他の子の意見も授業の様子と共に聞けたりと色々な話ができると共に、子供の考え方も（私自身の考え方の癖も）見えて、ありがたいなと思っています。本年度も宜しくお願い致します。

2回目【6年生の授業】

- デジタルタトゥーという最悪な事態もさけなければならないと思います。時代によっていじめの種類も変化しているように思います。インターネットの使い方を誤ると取り返しのつかないことになってしまいます。息子には写真を撮らない、送らない(人物)の指導をしています。
- スマホや SNS は大人も使い方次第で誰かを傷つけてしまう恐れがあるもので、それを子供に伝えることは意外と難しいと思います。子供は、まだスマホを持っていませんが、持たせる責任として親がしっかり教えてからにしないといけないと感じました。
- 便利で楽しい SNS ですが、使い方次第でいろいろな問題が起こるのだなと振り返りました。そんなつもりはなくても、受けた側との思いのズレが生じてしまうことが分かります。正しい関わり方といっても、なかなか難しく、一つ一つ解決していかなければならないのかなと思います。

3回目【5年生の授業】

- ニュースで災害や事故、戦争、事件を目にすると、命は病気だけに奪われるものではない、突然に、ということもあると伝えています。何気ない毎日は当たり前ではない、健康に健やかにすごせることのありがたさを感じてほしいと思います。子供が悩んでくよくよしたり、怒ったりするときは、「それも必要だけど、同じ一日笑って過ごそう」と声をかけるようにしています。限りある命、生活を大切に、1日、1日を大切にほしいとお便りを読んで改めて思いました。
- 日々の暮らしの中では、生きていることが当たり前になりがちですが、この世に生きていることが奇跡であり、よりよく楽しく生きたいと感じました。
- どうとくひろばのこの資料の中の「命は自分だけのものではない」等の大切に重要な言葉のフレーズを読んで聞かせました。読んだ後には、本人を抱きしめて「いつもみんながあなたのことを大切に思っていることを知ってほしい」とも伝えました。低学年のため闘病している時の気持ちを想像することが難しそうにしているため、まず自分自身が大切な命をもっていること、一つしかない命を自分のことから精一杯やってみること等を一緒に体感して学習してみました。

皆様からいただくお便りは、日々の授業づくりの大きな励みになっております。ご家庭でお子様に寄り添い、温かく言葉を交わしてくださる様子が伝わり、大変嬉しく読ませていただきました。学校での学びがご家庭での会話に繋がっていくことは、道德教育を進める上でも大きな支えとなります。これからも子どもたちを温かく見守り、思いやりの心を共に育てていければ幸いです。

----- 切 り 取 り -----
道德だよりへのご質問・ご感想

() 年 () 組 児童名 ()

感想や、お子さんとどのような話をされたかなど、一言でも構いませんので教えていただけると嬉しいです。今後の授業づくりの参考にさせていただきます。

